

学位論文内容の要旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">齊藤 和枝【論文博士】</p> <p style="text-align: center;">【比較社会文化学専攻 平成21年度生】</p> <p style="text-align: center;">(平成26年10月31日 単位修得退学)</p>	要 旨
論文題目	祭礼の芸能における子どもの役割 ー和歌山県東牟婁郡串本町 旧古座町ー	<p>この論文は、申請者の齊藤和枝さんが 20 年以上もの間、調査対象地域の和歌山県東牟婁郡串本町旧古座町にフィールドワークをしてきた結果に基づいたもので、その長期間にわたる調査のなかから、祭礼の芸能を研究するにあたっての一つの核として、子どもの役割に焦点を当てることとなった。本論文は、この旧古座町にあたる 3 つの地区の祭礼における子どもの演ずる役回り、すなわち、田原の『ねんねこ祭』の御飯持坐女、古座の『河内祭』のショウロウ、田原、古座、西向それぞれの獅子舞における小天狗、を研究対象として、こうした芸能における子どもの役割を論じることを目的としている。</p> <p>御飯持坐女は重い衣装を着た女兒が桶を頭上に担いで 150mを 1 時間以上かけて歩くもので、祭礼の行列の中心に女兒が位置する。ショウロウは男児と女兒が舟渡御の船上で先頭に立ち、拝礼場で拝まれる対象となる。地面に足をつくことが許されず、狩衣を着ている。また、獅子舞の小天狗は獅子に対してからかう役目で、様々な動きをしつつも地面にしっかりと足を付けて動く特徴がある。</p> <p>これらの芸能の子どもの役割に対して、本論文では二つの観点を設定した。すなわち、「一つ物」と「反閨」である。いずれも齊藤さんは過去の民俗芸能関連の文献を調査し、平安時代からの文献に現われる事例を比較することによって、この地域の事例がそれらのなかでどのような位置づけにあるかを検証した。さらに、地域共同体あるいはそれを越えての共通の認識として子どもが神と人間の間存在的存在としての役割を果たすこと、また、子どもが大人とともに独立した演技者として芸能の伝承者として重要な役割を果たしていることを明らかにした。</p>
審査委員	(主査) 教授 永原 恵三	
	教授 棚橋 訓	
	准教授 中村 美奈子	
	助教 井上 登喜子	
	聖徳大学音楽学部 教授 徳丸 吉彦	